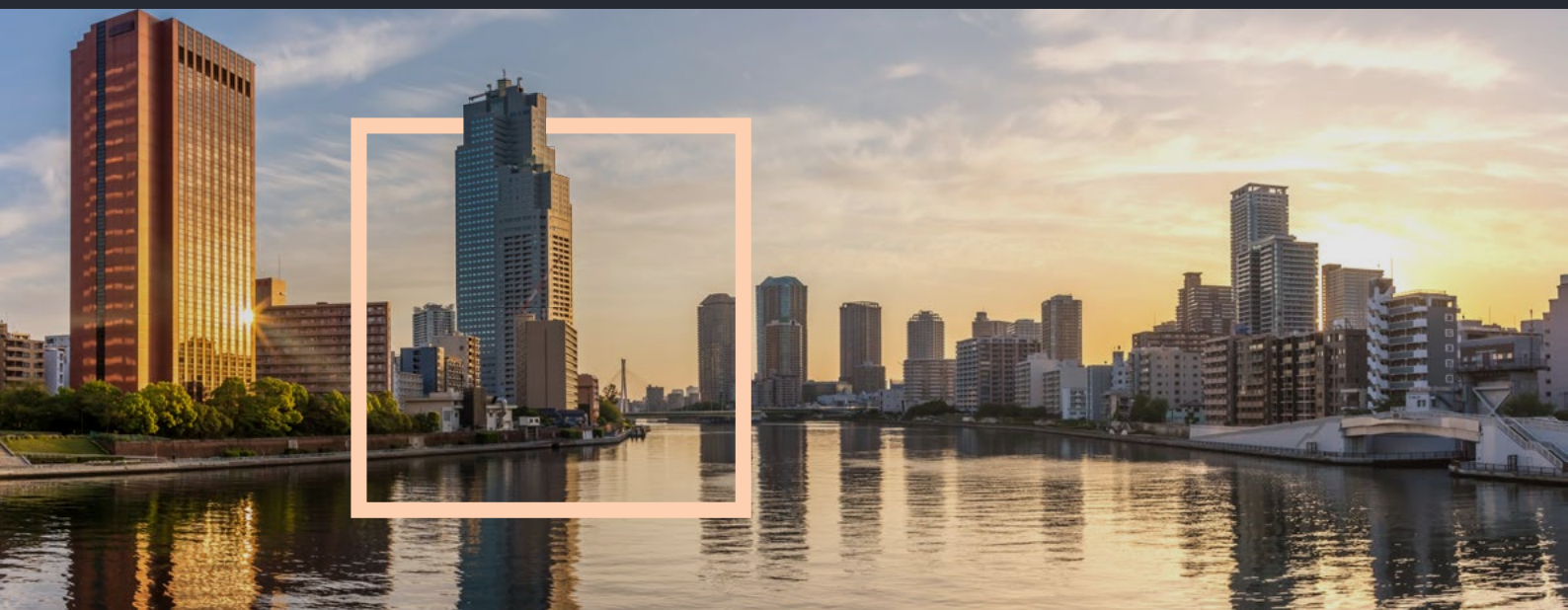


フィナンシャル・タイムズの法人契約は トッパングループの国際的な見識を深め、 世界の動向を分析するのに役立っている

professional.ft.com



課題

国際的拡大を推進しているトッパンは、事業を展開するグローバル市場全体で起こるさまざまなトレンドや事柄を幅広く認識する必要がある。最新のトレンドに対応するために、日本国内と海外相互の情報収集が不可欠となる。

解決策

フィナンシャル・タイムズの法人契約を導入することで、トッパンのグローバルな視点を高め、必要な分野で起きていることを詳細に分析し、潜在的な国際的影響を予測することができるようになった。

効果

フィナンシャル・タイムズが提供する深い洞察は、トッパンのような企業が多様でグローバルな視点を獲得することを可能にし、それを自社の「全体像」の見通しに適用することを可能にする。

“

「フィナンシャルタイムズは、世界中のどのメディアよりもグローバルな視点を提供している」

経営企画本部

グローバルビジネスセンター リチャード ブロードヘッド

エルヘート凸版法から世界を変える印刷テクノロジーへ

19世紀末にトッパンの創業者は日本での近代化の始まりを目撃し、ビジネスを立ち上げる機会を見出した。トッパンの高精細な印刷品質と技術は紙幣や郵便切手を中心に使用された、創業当時の最先端印刷技術だった「エルヘート凸版法」に由来し、現在も幅広いソリューションを展開している。

現在のトッパンは、印刷技術・製品をエレクトロニクス、情報コミュニケーション、生活・産業の3つの柱を持つ大企業へと成長を遂げた。トッパンのソリューションは、印刷、コミュニケーション、セキュア、パッケージ、建装材、エレクトロニクス、デジタルトランスフォーメーションなど多岐にわたる。

トッパンは本社を東京に置き、1963年に香港に拠点を置くことでグローバル展開を開始。現在は東南アジア、中国、欧州、米州など80カ所以上の事業所で海外事業を展開している。トッパンは多様な国際的な顧客基盤のもと世界の動向を幅広く把握し、グローバル化が顧客のニーズを最大限に満たす様、ビジネスに与える影響を把握することを目指している。

様々な製品やソリューションの提供に加え、ESG(環境・社会・コーポレート・ガバナンス)やSDGs(持続可能な開発目標)の重要性を企業課題として掲げている。トッパンは社会が抱える

課題を含めた環境への取り組みに参加そして主導し、社会と文化の発展に貢献している。

FTもまた、これらの問題への関心が近年高まり、世界経済のみならずビジネスの未来に大変重要なものであることを認識している。トッパンのような企業はFTの法人契約を導入し情報源にアクセスすることで、グローバルな意識を高め、国際的な動向を把握することができる。

国際的な動向と地域への影響の把握

トッパンのグローバルビジネスセンターで活躍するリチャード・ブロードヘッド氏は、14年以上にわたりFTの読者であるが「ESG投資など、海外でどのようなトレンドが始まるのか、そして日本に影響を与えるものなのか」をFTを通して把握している。トッパンにとって、国際的なトレンドを理解することは、各拠点における影響を分析し、現地で積極的に備えることと同様に重要である。

世界中で起こっている出来事を把握するためには膨大な時間と労力が必要であり、トッパンはFTを活用してこれを行っている。FTの法人契約は、ビジネス、金融、政治の世界における主要な出来事や動向を調査する600人以上のジャーナリストからなるネットワークへのアクセスをトッパンに提供している。トッパンはFTにアク



“

「このようなトレンドを素早く把握し対応することは、サステナビリティやガバナンスも含めた、あらゆる面での業績に直結すると思います」。

経営企画本部

グローバルビジネスセンター リチャード ブロードヘッド

セスすることで世界のニュースや出来事について、洗練された深い分析を得ている。

トッパンにおけるブロードヘッド氏の役割の一つは、グローバルビジネスセンターにおけるM&Aを支援することだ。「FTを読めば、資本市場やIPO市場の動きについての知識を深めることができ、その影響を受ける海外部門の業績の傾向がそれを反映していることがわかる」とブロードヘッド氏は説明する。「私たちの部門でこういった情報は必須だと思う。これらの情報を速やかに、グローバル展開を推進している責任者や海外事業の業績を分析している人に提供する必要があります」と述べた。

また、グローバルガバナンス本部で活躍する鎌田氏は、FTが「世界で何が起きているのか、トレンドや出来事を知るツールとして重要」であることを強調し、グローバルな視点とFTならではの分析により世界のトレンドに対応した戦略を維持するのに役立っている。

グローバル競争力のある事業の維持

トッパンは数十年にわたり事業展開を通して国際的な影響力を拡大し、事業のグローバル化を推進してきた。鎌田氏は「FT法人契約が提供するツールを活用することで、FTを読んで世界で何が起きているのかを見てグローバルな視点を持つことができる。FTを読むことはグローバル化に向けた一歩だと思う」と述べている。

グローバル化の効果の1つは製造コストの削減である。企業が自社製品を生産するために低コストな方法を使うことで競争がグローバル規模で激化する。

トッパンはFTを活用して、自社の競争力を高めるグローバルな視点を構築することに成功している。FTの法人契約はトッパンが競争に先駆けて事業を展開するために、トッパンの事業領域やセクター内で記事やニュースを見落とさないようにするためのツールを提供している。

ブロードヘッド氏は「海外の人々と同じような情報や見解を理解しなければ、ビジネスを行うことは難しい」と説明しているが、FTの法人契約によりトッパンは世界中のグローバルジャーナリズムに触れる事で、世界で起きている事の発見やそれらの繋がりを理解することができる。また、ブロードヘッド氏や鎌田氏のような購読者は、FTを読むことで競合他社のニュースや動向の最新情報を遅れずに取得することができる。

また、ブロードヘッド氏はグローバル化を組織だけでなく個人単位でも理解することの重要性を感じている。「グローバル化を進めるには企業の上層部だけでなく、社員が一体となって一から取り組まなければならない」と説明している。トッパンでは、FTの法人契約を導入することで、従業員のFTジャーナリズムへのアクセスを確保し、世界への理解を深め、戦略の形成に役立っている。

“

「本当に世界のことを知りたければ、世界共通語としてFTを読んでほしい」

経営企画本部

グローバルビジネスセンター リチャード ブロードヘッド



公平な視点の重要性を認識

FTはその偏りのない視点で評価されており、昨年のイプソスによるGlobal Business Influencers (GBI)調査で最も信頼できるメディアブランドに選ばれている。ブロードヘッド氏は「FTは中立的な立場を取る事で知られている」と述べ、「FTは英国中心の視点ではないということが最も重要だ。私はFTのアジア版を購読しているが、偏りのないグローバル視点である」と付け加えた。FTの詳細な分析は偏りのないバランスの取れた報道を提供している。

ブロードヘッド氏は「日本企業は、海外の活動家の視点に興味がある」と述べ、「例えばアジアビジネスエディターであるレオ・ルイスの記事は、日本からの記事だが『外から日本を見ている人』の視点として書かれているので役に立つ」と述べている。

彼はFT法人契約の一環としてmyFTを用いて「[Foods & Beverages \(飲食\)](#)、[Retail sector \(小売\)](#)、[Japan \(日本\)](#)」などのトピックを読んでおり、「多くの日本企業が海外投資家の影響を受けている」ことから具体的なトピックを知っておくことが重要であると考えている。

彼と同様に鎌田氏も「日本の記事がどのように世界に報じられているか」に関心を示している。FTは信頼されるジャーナリストが世界中から情報を集め、俯瞰的な視点からニュースを発信している。

トッパンはFTの法人契約を活用することによって国際的な見通しを増幅し、世界の動向を分析する能力を高めている。FTのジャーナリズムは、グローバルで偏りのない視点で、国際的な展望を展開し、国内外の新しいトレンドに対応することを可能にしている。

